

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成28年6月30日 (2016.6.30)

【公開番号】特開2016-64632(P2016-64632A)

【公開日】平成28年4月28日 (2016.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-026

【出願番号】特願2015-36462(P2015-36462)

【国際特許分類】

B 4 1 J 2/205 (2006.01)

H 0 4 N 1/405 (2006.01)

B 4 1 J 2/01 (2006.01)

【F I】

B 4 1 J 2/205

H 0 4 N 1/40 B

B 4 1 J 2/01 2 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成28年5月17日 (2016.5.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 7 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 7 3】

ステップ S 2 2 でハーフトーンパラメータを仮設定した後、次に、その仮設定したハーフトーンパラメータを用いてハーフトーン処理を行う（ステップ S 2 4）。ディザ法の場合、このステップ S 2 4 は、閾値「0」から現閾値までのドット ON 画素を求めることに相当する。つまり、現閾値の階調を持つ単一階調の入力画像について、ディザマスクを適用したハーフトーン処理後のハーフトーン画像（ドット配置）を求めることに相当する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 0 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 0 0】

グループ分けされた各グループに属する画素に対して、付加する誤差の「所定量」はグループ間で同じ値としてもよいし、グループ毎に異なる値としてもよい。また、「+ 所定量」と「- 所定量」は、絶対値が同じであってもよいし、絶対値が異なる値であってもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 5 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 5 1 4】

なお、上述した図 3 7 から図 4 5 で説明した実施形態における画像処理装置 2 0 による処理の内容は、画像処理方法として把握することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 15】

